

■踏込消毒槽に入れる有効な消毒薬

家畜伝染病予防法の中には、踏込消毒槽に使用する「消毒薬の種類」が規定されています（下表）。

家畜伝染病の種類	消毒薬の種類
牛疫、流行性脳炎、狂犬病、水泡性口内炎、リフトバレー熱、馬伝染性貧血、小反芻獣疫、豚熱、アフリカ豚熱、高病原性鳥インフルエンザ、ニューカッスル病、口蹄疫、アフリカ馬疫、豚水泡疫	次に掲げるいずれかの消毒薬（消石灰、キーエリアなど） 1 消石灰液（10%） 2 両性界面活性剤（ポリアルキルポリアミノエチルグリシンを成分とするもの） ※炭酸ソーダは口蹄疫にしか効果がありません
出血性敗血症、ブルセラ症、ヨーネ病、鼻疽、家禽コレラ、家禽サルモネラ症	次に掲げるいずれかの消毒薬（消石灰、キーエリア、クリアキルなど） 1 消石灰液（10%） 2 両性界面活性剤（ポリアルキルポリアミノエチルグリシンを成分とするもの） 3 逆性石けん（塩化ジデシルジメチルアンモニウムを成分とするもの）
炭疽	次に掲げるいずれかの消毒薬（アンテックビルコンSなど） 1 ハロゲン化合物（次亜鉛素酸ナトリウムを成分とするもの）
結核	次に掲げるいずれかの消毒薬（消石灰、キーエリアなど） 1 消石灰液（10%） 2 両性界面活性剤（ポリアルキルポリアミノエチルグリシンを成分とするもの）
牛肺疫、アナプラズマ症	次に掲げるいずれかの消毒薬（消石灰、キーエリア、クリアキルなど） 1 消石灰液（10%） 2 両性界面活性剤（ポリアルキルポリアミノエチルグリシンを成分とするもの） 3 逆性石けん（塩化ジデシルジメチルアンモニウムを成分とするもの）

農場へはいつどのような病原体が侵入してくるか分かりません。各病原体に有効な消毒薬がそれぞれあるのですが、**実際に農場で使用する消毒薬は、口蹄疫以外にも効果があるものが良い**と考えます。

表を見ると、**ほとんどの病原体に有効なのは消石灰液（10%）と両性界面活性剤**となっています。よく使用されている「逆性石けん」は「有機物が混入すると効果が落ちる」ため、少なくとも毎日、使用頻度によっては、一日に何回も交換しなくてはなりませんので、とても手間がかかります。また、気温が低い冬季などは効果が低くなります。一方、「消石灰」は一部を除き多くの病原体に有効であり、有機物が混入しても効果が変わらないので、週に一回の交換でOKです。また、農場出入口へ散布する「消石灰帯」に使う消石灰と全く同じなので、「消石灰帯」と「踏込消毒槽」を同時に作る事が可能です。

※両性界面活性剤は一般的でないので割愛します。

■消石灰による踏込消毒槽の作り方

作り方は、水10リットルに対し、消石灰100g（紙コップ1杯分）入れるだけです。消石灰は水にほとんど溶けませんので、分量はともかく、白く濁っていればOKです。

※消石灰が目に入らないように注意してください。

